

令和7年度 自己評価

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

1-1 学校運営

1-1-1 運営方針

	内容	評価の視点	総括
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	①運営方針を明確に定めているか。 ②運営方針を教職員に周知しているか。 ③教職員が運営方針を理解して活動しているか。 ④教職員は運営方針に基づき一丸となってガバナンス強化に取り組んでいるか。	毎月行っている研修会の際、必要に応じ学校長が運営方針の確認を行った。

1-1 学校運営

1-1-2 事業計画

	内容	評価の視点	総括
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	①中期計画（3～5年程度）を定めているか。 ②単年度の事業計画を定めているか。 ③事業計画を進めていく上で、管理・見直しが行われているか。 ④事業計画を教職員に周知しているか。	単年度の事業計画を作成するとともに、重点事項を研修会で報告した。

1-1 学校運営

1-1-3 運営組織

	内容	評価の視点	総括
3	運営組織や意思決定機関（会議や委員会等）は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	①運営組織・意思決定機関を整備し、明確に定めているか。 ②運営組織図・意思決定機関を公表しているか。 ③各部署の役割分担や組織目標を規程等で明確にしているか。 ④規則・規程等は必要に応じて適切な手続きを経て改正しているか。	障がいのある学生への支援に関し、新たに障がい学生支援委員会及びキャンパスライフ支援室を設けることとした。 また、規則・規程等は必要に応じて適切な手続きを経て改正した。

1-1 学校運営

1-1-4 人事・給与制度

	内容	評価の視点	総括
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	①採用基準・採用手続きについて規程等で明確にし、適切に運用しているか。 ②適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか。 ③給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか。	現行と同様、採用基準・採用手続きについては、就業規則等に基づき、適正に実施した。 各医療職種の養成所指定規則、養成所指導ガイドラインに則った教員数を確保・維持している。退職による欠員が出た場合にはハローワークや其他媒体を活用し募集活動を実施した。 昇進・昇給については法人本部の規定等に基づき実施している。

1-1 学校運営

1-1-5 コンプライアンス体制

	内容	評価の視点	総括
5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	①業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。 ②教職員に向けてコンプライアンス教育を実施しているか。 ③教職員はコンプライアンス意識をもって業務にあたっているか。	公益通報者の保護を行うため、令和6年4月から就業規則を一部改正するとともに法人内で「内部通報に関する規程」を制定した。

1-1 学校運営

1-1-6 情報システム

	内容	評価の視点	総括
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	①学生に関する情報について安全な管理システムを構築しているか。 ②業務処理に関するシステムを構築しているか。 ③システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか。 ④情報システム化により業務の効率化が図られているか。	学生に関する情報については、安全かつ適切に管理できるシステムを構築している。また、システムのメンテナンス及びセキュリティ対策については、専門業者により適切に管理・運用されている。 情報システム化により、事務処理の効率化が図られている。

1-2 財務

1-2-1 財務基盤

	内容	評価の視点	総括
7	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	①財務基盤は安定しているか。 ②収支及び経費の分析、見直しの対策を行っているか。 ③法人本部の予算計画に沿った収支計画が実行できているか。	少子化の現状を考えると中長期的に安定しているとは言い難い。 施設・設備の修繕など法人本部と連携を取りながら計画的に実施した。

1-2 財務

1-2-2 収支計画

	内容	評価の視点	総括
8	収支計画は有効かつ 妥当なものとなっ ているか	①入学者目標、在籍者目標を基礎とした収入予 算の作成が出来ているか。 ②法人本部の予算計画に沿った運用ができてい るか。	入学者目標、在籍者目標を基に収入予算を作成し、法人本部に報告した。今後は少 子化により更なる入学生数の減少が見込まれる。 施設・設備については、予算面で法人本部と連携を取りながら計画的に実施した。

1-2 財務

1-2-3 監査

	内容	評価の視点	総括
9	財務について会計監査が適正に行われているか	①外部監事による会計監査を適正に実施しているか。 ②監査報告書が作成され、公表しているか。	法人全体の事業報告について、会計監査を毎年実施しており、適正な外部監査を受けた。監事監査報告書や事業報告書、会計関係の書類は適正に作成し、ホームページで公開した。

1-2 財務

1-2-4 財務情報の公開

	内容	評価の視点	総括
10	財務情報公開の体制整備はできているか	①財務情報公開の体制は整っているか。 ②ホームページに公開されているか。 ③公開された情報は定期的に更新しているか。	ホームページにおいて、法人の財務情報として貸借対照表、損益計算書、財産目録、事業報告書、監事監査報告書を公表した。財務情報は随時更新し、最新の情報を掲載した。

1-3 法令等の遵守

1-3-1 関係法令、設置基準等の遵守

	内容	評価の視点	総括
11	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	①関係法令及び設置基準等に基づき学校運営を行っているか。 ②必要な諸届等を適切に行っているか。 ③学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか。	法令、専修学校設置基準等を遵守するとともに以下の手続き等を行った。 1. 言語聴覚士科廃科の届出 2. 臨床工学科学生募集中止の届出 3. 臨床工学特科学生募集中止の届出 4. 学則変更届提出(歯科衛生士科教育課程変更) 5. 学則変更届提出(学校教育法改正) 6. 学則変更届提出(診療放射線科入所定員変更) 7. 視能訓練士科及び歯科衛生士科の校舎各室の用途及び面積変更の届出 8. 令和7年度教員資格及び教育内容等の自己評価実施・公表(理学療法士科・作業療法士科)

1-3 法令等の遵守

1-3-2 個人情報保護

	内容	評価の視点	総括
12	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	①個人情報保護に関する規程を定めているか。 ②教職員及び講師が個人情報に関する規程を遵守し、適切に運用しているか。 ③学生・教職員に個人情報保護に関する啓発及び教育を実施しているか。	教職員の中で個人情報への認識が統一されていなかったため、インターネットを活用したeラーニングを受講させ、教職員の個人情報保護への意識を高めた。

1-3 法令等の遵守

1-3-3 学校評価

	内容	評価の視点	総括
13	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	①自己評価に関し、規定等を整備し実施しているか。 ②自己点検・自己評価を定期的に行っているか。 ③外部評価を実施しているか。 ④評価結果に基づき改善に努めているか。	自己評価を通して、学校評議会を実施した。継続的な改善と発展を図るため、外部評価の準備を行った。

1-3 法令等の遵守

1-3-4 教育情報の公開

	内容	評価の視点	総括
14	教育情報を公開しているか	①教育理念、教育目標、目的、ポリシー等を公表しているか。 ②各科のカリキュラムやシラバスを公表しているか。 ③自己評価結果を公表しているか。 ④公開された情報は常に更新しているか。	公表内容を随時更新した。

2-1 教育・理念目的・育成人材像

2-1-1 理念・目的・育成人材像

	内容	評価の視点	総括
15	学校の教育理念・教育目的・育成人材像は定められているか	①理念に沿った目的、育成人材像になっているか。 ②理念等は明確に定められているか。 ③理念等は学内外へ広く公表しているか。 ④学科ごとの育成人材像が定めれているか。	学校の教育理念、教育目標並びに育成人材像は明確に定めている。学生便覧の他、ホームページ等で学内外にも公表し、学生、教職員及び保護者への周知を図った。
16	学校における職業教育の特色は何か、明確になっているか	①本校の職業教育の特色を定めているか。 ②職業教育の特色を明確に示しているか。 ③理念等の達成に向けて、特色ある教育活動に取り組んでいるか。 ④職業教育の特色を学内外へ広く公表しているか。	本校における職業教育の特色は教育目標にて明確に示している。教育理念等の達成に向けて、一貫した教育活動の実施、FD活動の充実を課題とし、更なる向上を図っている。 職業教育の特色を学校パンフレットやホームページ等で公表し、高校訪問時にも説明するなど学内外へ広く公表はしているが、まだ周知不十分な面もあり、更に広く公表できる方法を検討課題とする。
17	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	①社会のニーズ等について、マーケティングを実施しているか。 ②全教職員が中期的(3～5年)な将来構想を抱いているか。 ③将来構想について協議する場があるか。 ④全職員が将来構想の実現に向けて計画しているか。	少子化が及ぼす影響や各科の状況を理解して共有するため、全教職員を対象とする研修会を実施し、今後も継続していく予定である。また、将来構想を検討するため、中長期的な視点で活動をより充実させていく必要がある。

2-2 教育活動

2-2-1 目標の設定等

	内容	評価の視点	総括
18	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	①教育課程の編成・実施方針が策定されているか。 ②教育課程の編成・実施方針は教育理念に沿っているか。 ③教育課程の編成・実施方針を学生に明示しているか。 ④指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を実施しているか。	各科の教育課程の編成や実施方針は、本校の教育理念に沿って策定しており、学生便覧に掲載するとともにホームページにも掲載し、学生のみならず幅広く周知している。 カリキュラムは、指定規則に基づき、体系的に編成され、シラバス等で学生に明示している。 臨床工学専攻科では指定規則の変更に伴い新カリキュラムを導入した。

2-2 教育活動

2-2-2 教育方法・評価等

	内容	評価の視点	総括
19	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	①教育理念、目標を到達しうるカリキュラム編成であるか。 ②各学科のディプロマポリシーに到達しうるカリキュラムポリシーを策定しているか。 ③カリキュラムは公表されているか。 ④学科毎の体系的に編成されたカリキュラムマップがあるか。	教育理念、目標を達成しうるカリキュラム編成を行っており、カリキュラムはホームページにて公表している。 また、各科のディプロマポリシー及びこれに到達しうるカリキュラムポリシーを作成し、公表している。 一部の学科はカリキュラムツリーを作成しており学生に体系的なカリキュラム編成を具体的に提示している。今後、全学科で作成する必要がある。
20	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが計画・実施され、シラバス等にも明示されているか	①キャリア教育を実施しているか。 ②キャリア教育の実施にあたり意義や指導方針等を定めシラバスに明示しているか。 ③キャリア教育を行うための教育内容・教育方法を工夫しているか。	実践的な職業教育を目的として、各学科独自のキャリア教育を実施している。今後は全学科で体系化された指導の方針、方策を策定していく必要がある。また、社会のニーズに沿った内容や、多様化している学生に対応できる仕組みを検討し、継続的に実施する必要がある。
21	授業評価及び、職業教育に関する外部関係者からの評価を実施・評価体制はあるか	①授業評価を実施する体制を整備しているか。 ②学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。 ③授業評価結果を教員にフィードバックするなど、授業改善に活用しているか。 ④職業教育の効果について、卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	授業評価は、全ての授業科目の最終講義後にWebを用いた形式でアンケートを実施し、結果を集計している。アンケートの質問内容を見直すとともに、回答協力を強く促すことにより、令和4年度は73%であった回答率が、令和5年度から7年度にかけて80%を超える回答率となっている。 授業評価アンケートの集計結果を授業改善に活用するために教員へのフィードバックを行っているが、活用方法には個人差があるため、アンケートの活用法について検討する必要がある。 職業教育の効果については、卒業生や関連業界からの意見収集方法について検討していく必要がある。

2-2 教育活動

2-2-3 成績評価・単位認定等

	内容	評価の視点	総括
22	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確であり、GPA等の客観的指標が取り入れられているか	①成績基準について、学則等に規定するなど明確にしているか。 ②成績評価の基準を適切に運用するために、会議等を開くなど、客観性・統一性の確保に取り組んでいるか。 ③入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。 ④成績をGPA等の客観的指標で示し、適切な運用をしているか。	学則及び規則で成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準を明確にしている。また、学生便覧及び細則を全学生に配布し説明している。教職員は全体会議や研修会にて、成績評価、単位履修について、共通理解を徹底している。 本校入学前の他の教育機関での修得単位については、学則及び既修得単位認定規則に基づき、適切に運用している。 成績評価に関する客観的指標として運用しているGPAデータを蓄積し、学生指導に活用できるようにしている。

2-2-4 教職員組織

	内容	評価の視点	総括
23	人材育成目標の達成に向けた授業を行うことができる要件を備えた教員及び、実務経験のある教員を一定数確保しているか	①各学科の専任教員は法定に定める人員を確保できている。 ②法定で定められている実務経験等、資格要件を満たした教員の確保ができている。 ③教員の知識、技術、技能レベルは、関連業界に適合している。	指定規則に定められた実務経験や資格要件を満たした教員を確保できている。 教員の知識、技術、技能については、各委員会による研修会の他、学外研修や学会参加により資質向上に務めている。
24	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	①関連業界等との連携による教員の研修、研究に取り組んでいるか。 ②教員の研究活動・自己啓発への教員のキャリア開発を支援しているか。 ③教職員の資質向上のための研修計画を定めているか。 ④教職員の資質向上のために、FD・SD研修を月1回実施しているか。	教員の知識、技術、技能レベルを関連業界に適合させるため、関連業界等との連携による教員研修や学会への参加を支援する制度を設けている。 教職員の資質向上を目的として学内でFD・SD研修会を定期的の実施している。

2-3 学修成果

2-3-1 就職率

	内容	評価の視点	総括
25	就職率の向上が図られているか	①就職率に関する目標を設定しているか。 ②学生に対し、就職活動に向けて、計画的に指導を行っているか。 ③就職率等のデータについて適切に管理しているか。 ④就職率向上のために、データ等を適切に活用しているか。	高い就職率を目標とし、早期に就職活動を開始できるよう就職対策講座を定期的 に開催している。特に卒業期の学生については、年度始めに就職の手引きを配布し、就職活動のマニュアルとして活用している。学生一人ひとりの希望する進路先に応じて、過去の就職試験データを分析・活用するとともに、就職先に関する情報収集を行い、採用試験に合格できるよう個別に指導・支援している。 就職率に関するデータは各科及び事務局学務グループ、事務局学生支援・広報グループで適正に管理し、活用している。

2-3 学修成果

2-3-2 資格・免許の取得率

	内容	評価の視点	総括
26	資格取得率の向上が図られているか	①資格・免許取得率に関する目標を設定しているか。 ②国家試験対策講座等の補完的授業による学習支援の取り組みを実施しているか。 ③合格実績、合格率、全国水準との比較等データ分析しているか。 ④指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。	資格試験対策に対し補講等サポートを実施している。また、これまでの問題の傾向も把握し、学生が合格できる対策スケジュールを構築している。
27	退学率の低減が図られているか	①中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数を把握しているか。 ②中途退学の低減に向けた学内における連携体制があるか。 ③退学に結び付きやすい心理面、学習面での特別指導体制があるか。 ④学生面談に加え、学生のモチベーションコントロールにつながる行事等を実施しているか。	講義の理解度不足や学内でのコミュニケーション不足による出席率の低下が退学を招くことから学業面では補講等でのサポートを行い、心理面では教員のサポート並びに心理カウンセラーによるサポートを実施している。

2-3 学修成果

2-3-3 卒業生の社会評価

	内容	評価の視点	総括
28	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握し、卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用されているか	①社会的活躍をした卒業生・在校生の活動を把握しているか。 ②社会的活躍をした卒業生・在校生の活動報告を行っているか。 ③関連業界等による本校の卒業生の活躍について評価システムを構築しているか。 ④卒業後のキャリア形成への効果を教育活動の改善に活用しているか。	学友会やホームカミングデイ等で卒業生の活動状況や進路状況を把握している。卒業生の活躍評価システムの構築は他校の状況を鑑みて検討する。

2-4 学生の募集と受入れ

2-4-1 学生募集活動

	内容	評価の視点	総括
29	中学校・高等学校等 接続する機関に対す る情報提供等の取り 組みを行っているか	①高等学校等で実施している進路説明会への参加や出前授業を実施し、高校生に対して教育活動等の情報提供を行っているか。 ②中学校への出前授業やインターンシップ等を実施し、中学生に対して職業紹介等の情報提供を行っているか。 ③教職員による高校訪問等を実施をしているか。	高等学校との関係性強化のために出前授業を積極的に受け入れた。 中学校については、出前授業への参加やトライやるウィークの受け入れを積極的に行い、職業紹介を行った。
30	学生の募集活動は、 適正に行われている か	①専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動をしているか。 ②入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか。 ③志願者等からの入学相談に適切に対応しているか。 ④オープンキャンパス等の実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫などを行っているか。	指定校推薦入試やAO入試、一般入試は適正な時期に入学試験を行った。オープンキャンパスは9回実施し、毎回実施内容に工夫した。
31	学生募集活動におい て、教育成果・資格 取得状況・就職状況 等は正確に伝えられ ているか	①特色ある教育活動をわかりやすく紹介しているか。 ②教育成果について正確に情報提供できているか。 ③資格取得実績を公開しているか。 ④就職実績を公開しているか。	国家試験合格実績や就職実績など、公開している。

2-4 学生の募集と受け入れ

2-4-2 入学選考

	内容	評価の視点	総括
32	入学選考の基準を明確化し、適切に運用しているか	①入学選考基準を明確に定めているか。 ②入試方法は規定等で明確に定めているか。 ③入学選考は、適切に実施しているか。 ④入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか。	入学選考を適切に実施するため、入学試験実施マニュアルの見直して、適切に運用した。
33	入学選考に関する実績を把握し、学生の募集活動に活用しているか	①各学科の合格率・辞退率などの状況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか。 ②各学科の入学者の傾向について把握し、学生の募集活動に活用しているか。	入学選考に関する実績データ(出願数、受験者数、合格者数、辞退者数等)を解析し、教員研修等で入学者の動向等を周知し、学生募集に活用した。

3-1 学生支援

3-1-1 就職等進路

	内容	評価の視点	総括
34	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	①履歴書や面接等の具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開催し就職支援を実施しているか。 ②大学への編入学等、個別相談に応じ、進路支援を適切に行っているか。 ③関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。 ④就職に関する個別の相談に適切に応じているか。	これまでの就職率向上のためのツール（手引き書、動画、実施講習等）に加え、外部支援センター講習を取り入れ、ジョブカードによる自己理解、職業理解を深めることにより、就職活動に繋げている。 就職情報及び報告書等は、学生がいつでも閲覧できるように各科で管理し、各科教員による模擬面接、履歴書の添削、大学への編入学等の個別相談の充実を図り、学生が希望する施設への就職活動、進学へのサポートしている。

3-1 学生支援

3-1-2 学生相談

	内容	評価の視点	総括
35	学生相談に関する体制は整備されているか	①相談に関する組織体制の整備及び、適切な環境整備を行っているか。 ②学生相談室、各学科への相談、およびハラスメント相談室利用状況を把握しているか。 ③学生や教職員に対して適切にハラスメント防止に関する啓発活動を行っているか。 ④臨床・臨地実習の指導担当者に対してハラスメント防止に関する啓発活動を適切に行っているか。	相談に関する組織体制の整備は行えており、学生からの相談に対応できる体制は整えている。 ハラスメント防止の啓発活動を継続し周知に努め、ハラスメントの発生を予防している。また、ハラスメント相談室担当者及び各科教職員の意識を高めるよう、研修や啓発を行い、相談者としての資質の向上に努め、学生の支援を継続する。

3-1 学生支援

3-1-3 学生生活支援

	内容	評価の視点	総括
36	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	①学校独自の奨学金制度を整備しているか。 ②学費の延納や学費の分割納付制度を整備しているか。 ③公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか。 ④全ての経済的支援制度の利用について、実績を把握しているか。	学校独自の給付型奨学金制度について、選考委員により点検を行った。 経済的な理由により就学が困難な学生に対し、奨学金の案内や申請を迅速に行った。 学生への食の支援として、独立行政法人日本学生支援機構の「物価高に対する食の支援事業」に係る助成金申請を行った。事業実施に当たり、必要な経費の1/2を支援事業の助成金で、残り1/2を本校が負担し、学内の売店で利用できる金券を一人暮らしの学生には4,000円、その他の学生に2,000円分を配布し支援を行った。
37	学生の健康管理を担う体制はあるか	①学校保健法に基づいた学生の健康管理を行っているか。 ②保健室及びカウンセリングルームを整備し、専門職員を配置しているか。 ③抗体検査・ワクチン接種の管理などの感染症対策を行っているか。 ④校内の衛生管理を整備しているか。	学校保健法に基づき、学生の健康管理を実施している。
38	課外活動に対する支援体制は整備されているか	①サークル活動等、団体活動について体制を整備しているか。 ②サークル活動等、団体活動の状況を把握し、案内を学生に行っているか。 ③学校施設をレクリエーションの場として利用できるように開放している。 ④レクリエーションのためにスポーツ用具等を学生に貸出しているか。	サークル活動や団体活動については、規則等を整備し、学生に案内している。また、昼休みにはグラウンドを開放してスポーツ用具等の貸し出しを行い、レクリエーションの場として利用できるようにしている。
39	学生の生活環境への支援は行われているか	①学生生活における様々なトラブルを回避するための啓発活動を行っているか。 ②賃貸物件を紹介するなど生活の場を確保するための支援を行っているか。 ③駐車場・駐輪場を設置するなど通学に関する支援を行っているか。	学生が安全で快適な学生生活を送れるように、トラブルの予防法をオリエンテーションで周知した。また、行政から学生向けのトラブル回避の注意喚起の啓発ポスターやチラシを掲示で周知した。 駐車場の整備を行った。

3-1 学生支援

3-1-4 保護者との連携

	内容	評価の視点	総括
40	保護者と適切に連携しているか	①保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか。 ②個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか。 ③学力不足、心理面等の問題解決にあたり、保護者と適切に情報提供、連携を行っているか。 ④緊急時の連絡体制を確保しているか。	全学科で本校の教育活動に関する理解を得るために、入学式直後に保護懇談会を実施している。また、保護者面談は必要に応じて実施しており、来校できない保護者に対しては電話で対応した。 成績表は、各学期終了時に学費出資者へ送付している。また、頻回な欠席や学力不足、心理面に問題を抱える学生には、個別面談や保護者へ連絡した上での三者面談を実施している。学生の様子や欠席状況によっては、必要性を判断し、学期途中でも保護者に連絡している。今後も保護者等との連携を図り、学生を支援できる体制を整えていく必要がある。 面談記録はシステム内に記録する体制が整ったことにより、教員間で情報を共有した上で対応ができるようになっている。 緊急時の連絡体制については、入学時に緊急連絡先を把握しており、学内で心身の不調等を起こした場合は、緊急連絡先へ連絡している。

3-1 学生支援

3-1-5 卒業生・社会人

	内容	評価の視点	総括
41	卒業生への支援体制はあるか	①卒業生と連絡を取るための手段が整備されている。 ②再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に対応している。 ③卒業後のキャリアアップのための講座等を開講している。 ④卒業生の図書室利用や国家試験不合格者を支援するための体制を整備している。	卒業生と連絡を取るための手段は各学科で整備されており、再就職等の相談にも対応している。 卒業生の学内施設利用や国家試験不合格者への対策講座への受講、模擬試験の受験などの支援体制も整備されている。

4-1 教育環境

4-1-1 施設・整備等

	内容	評価の視点	総括
42	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	①施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、且つ充実しているか。 ②学生の学習支援のための施設及び、休憩・食事のためのスペースを整備しているか。 ③学校施設内の衛生管理を徹底及び、施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について、適切に対応しているか。 ④施設・設備のバリアフリー化の取り組み及び施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか。	設置基準・関係法令に適合した施設・設備・機器類等が確保されている。 本館 1Fの多目的スペースは学生に開放し、売店を併設して学生の利便性を高めている。さらに多目的スペースには電子レンジや電気ポットを設置し、パソコンやタブレットや携帯に使えるコンセントを各テーブルに配置するなどして学生がより自主学習や休息の場として利用しやすいように整備している。 学校施設内の衛生管理を徹底し、施設・設備等の日常点検および定期点検を実施し、老朽化した施設・設備については優先順位をつけて計画的な修繕を行っている。今年度は優先順位の高かった5号館ガスヒートポンプエアコン（GHP）全6台について電気ヒートポンプエアコン（EHP）に変えて、前年度までの3台に続き残り3台の更新、経年劣化の著しい本館の空調ポンプ全7台の更新、2台ある冷温水発生機の中の1台のオーバーホール、故障のあった排風機・換気扇更新工事を実施した。 機器類については診療放射線科のX線一般撮影装置を前年同様今年度も1台更新を行った。

4-1 教育環境

4-1-2 学外実習・インターンシップ等

	内容	評価の視点	総括
43	学内外の実習施設、インターシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	①学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか。 ②学外実習等について、実施要項を作成し、適切に運用しているか。 ③学外実習について成績評価項目を明確にしているか。 ④学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。	臨床実習については、シラバスで目的や意義・到達目標などを明確に定めている。学生には臨床実習前にオリエンテーションにて資料を配布し、臨床実習の意義や教育課程上の位置づけを明示している。成績評価基準については学修の評価として明確に定めている。 実習施設の指導者との連絡や協議については、各科で実習施設ごとに担当教員を決めて対応している。さらに、診療放射線科、理学療法士科、作業療法士科、言語聴覚士科では、オンラインあるいはハイブリッド形式で実習指導者会議を開催し、学校と関連業界との連携を図っている。 緊急時の連絡手段・方法については学科間で統一されていないため、今後、適切な方法について全学科で統一した体制づくりをしていく必要がある。

4-1 教育環境

4-1-3 防災・安全管理

	内容	評価の視点	総括
44	防災に対する体制は整備されているか	①防災、消防、設備の整備及び保守点検は法令に基づき行われ、改善が必要な場合は適切に対応しているか。 ②災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか。 ③施設、建物・設備の耐震化及び、備品の固定等、転倒防止等の安全対策を徹底しているか。 ④学生、教職員に防災教育、研修を行っているか。	防災マニュアルの見直し（Jアラート発出時の対応も含めて）を行い改訂作業を引き続き行う。 順次行っている備品の固定や老朽化した設備等の改善、物品類の整理を継続し、安全で過ごしやすい環境を目指す。

5-1 社会貢献・地域連携

5-1-1 社会貢献・地域連携

	内容	評価の視点	総括
45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	①学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか。 ②地域社会の健康増進に貢献しているか。 ③教育訓練の受託等を実施しているか。 ④教育訓練の受託等の案内を積極的に行っているか。	今年度も引き続き神戸大学とのコグニケアを実施した。 地域交流の場として、KCCフェスタや小学生を対象とした夏休みイベント「キッズフェスタ」を実施した。
46	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	①ボランティア活動を支援する体制が整っているか。 ②ボランティア活動を随時学生に提供しているか。 ③ボランティア活動を教育の一環として取り入れているか。 ④ボランティア活動実績を把握しているか。	学生がボランティア活動に参加できるように案内を行った。